

しまねけん
島根県
うんなんし
雲南市



○お問い合わせ先○

一般社団法人 雲南市観光協会

〒690-2404
島根県雲南市三刀屋町三刀屋73-4 2階
TEL0854-47-7878 FAX0854-47-7879

雲南市の観光サイト
「うんなん旅ネット」



<https://www.unnan-kankou.jp/>



しまねけん うんなんし
島根県雲南市

ヤマタノオロチ伝説と巡る旅

日本最古の歴史書「古事記」に残るスサノオノミコトのヤマタノオロチ退治。この舞台が島根県雲南市をはじめとした斐伊川流域といわれており、現在でも多くの伝承地が残されています。

奥出雲の原風景の中に残される伝承地を巡り、神話ロマンに浸ってみてはいかがでしょうか？きっと“すがすがしい”気分になっていただけるはずです。

※「古事記」とは！？

奈良時代の712年（和銅5年）に大安万侖によって献上された日本最古の歴史書。全3巻のうち、神々の物語を描いた上巻の3分の1を、出雲神話が占めています。

市内に残る神話伝承地は、古事記をはじめ、出雲國風土記（733年）、天瀬八叉大蛇記（1523年）、雲陽誌（1717年）などにたどることができます。

○

古事記に残る『ヤマタノオロチ退治』ストーリー

高天原を追放されたスサノオノミコトは、出雲の国を流れる「肥の川（斐伊川）」の河上、鳥髪の地に降り立ちます。人気のない川べりで川の流れを眺めていると、河上から「箸」が流れきました。上流に人が住んでいると悟ったスサノオノミコトは、川を上流へと遡ると、老父と老女が間に若い娘を置いて泣いているのに出会います。

スサノオノミコトが「お前たちは誰か」と尋ねると、老父は「私はこの国を治める神で、オオヤマツミノカミの子・アシナヅチと申します。妻の名はテナヅチ、娘の名はクシナダヒメといいます」と答えました。また、スサノオノミコトが「なぜ泣いているのか」と尋ねると、アシナヅチは次のように答えます。「私どもにはもともと八人の娘がありました。ところが、高志のヤマタノオロチが毎年やって来ては、娘を一人ずつ食べ、今はクシナダヒメただ一人になりました。今年もそろそろオロチがやって来る頃になったので、それが悲しくて泣いているのです」。「そのオロチとやらは、どんな姿をしているのか」とスサノオノミコトが尋ねると、「目はほおづきのように赤く、一つの身体に、頭が八つ、尾も八つございます。胸は苔むし、背にはヒノキやスギが生えていて、その長さは八つの山、八つの谷に渡るほどで、その腹を見れば一面に血がじんじんで、赤く爛れています」とアシナヅチは答えました。これを聞いたスサノオノミコトが、「私がヤマタノオロチを退治したら、この娘を私の妻にくれないだろうか？」と言うと、「恐れ多いことですが、貴方様のお名前も存じませんので」とアシナヅチが答えたので、「私はアマテラスオミカミの弟でスサノオと申す。今しがた高天原から下天降ったところだ」とスサノオノミコトが言うと、「それは恐れ多いこと。娘を差し上げましょう」とアシナヅチ、テナヅチは言いました。

そこでスサノオノミコトは、クシナダヒメを手枷に変えて、自分の顔に刺すと、アシナヅチとテナヅチに向って「そなたたちは、八塙折に絞った強い酒をつくり、また垣根を張り巡らし、その垣根に八つの門を設け、門ごとに八つの棟敷を構え、そこに酒船を置き、八塙折の強い酒で満たし、事が成るのを待つがよい」と命じました。

命令を受けたアシナヅチ、テナヅチが、スサノオノミコトに言われたとおりに準備を整えて待っていると、やがて恐ろしいヤマタノオロチが姿を現し、八つの頭を八つの酒船に突っ込んで、ガブガブと酒を飲み干しました。酔にして強烈な酒だったので、さすがのオロチも酔いが回って眠ってしまいました。

この機を待っていたスサノオノミコトが、その腰に帯びた十拳の剣を抜いて、ヤマタノオロチをズタズタに斬り払うと、斐伊川の水が真っ赤になって流れました。そして、オロチの中ほどの尾を斬った時、十拳の剣の刃がこぼれたため、これは怪しいと思って尾を切り開いてみると、中から見たこともないような素晴らしい剣が出てきました。スサノオノミコトは、この剣をアマテラスオミカミに献上しますが、これがいわゆる草薙の剣（天叢雲の剣）です。

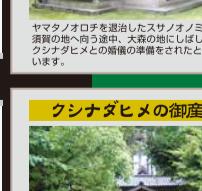
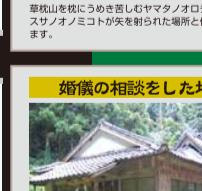
ヤマタノオロチを見事に退治したスサノオノミコトはクシナダヒメと結婚し、宮殿を造るところを出雲の国に探し求めます。そして須賀という土地に至った時、「わたしはこの地に来て、心がすがすがしくなった」と言って、そこに宮を造ってお住まいになりました。これが須賀という地名の由来になっています。

須賀の宮を造る時、そこに白い雲が幾重にも立ち上る様を見たスサノオノミコトは、「八雲立つ 出雲八重垣妻ごみ 八重垣つくつその八重垣を」という御歌を詠みました。

そして、スサノオノミコトはアシナヅチを呼ぶと「おまえを、この宮の首長に任じよう」と言って、稻富宮主須賀之神という名を与えました。

島根県の観光情報サイト「うんなん旅ネット」では、この伝説を元にした観光情報を提供しています。

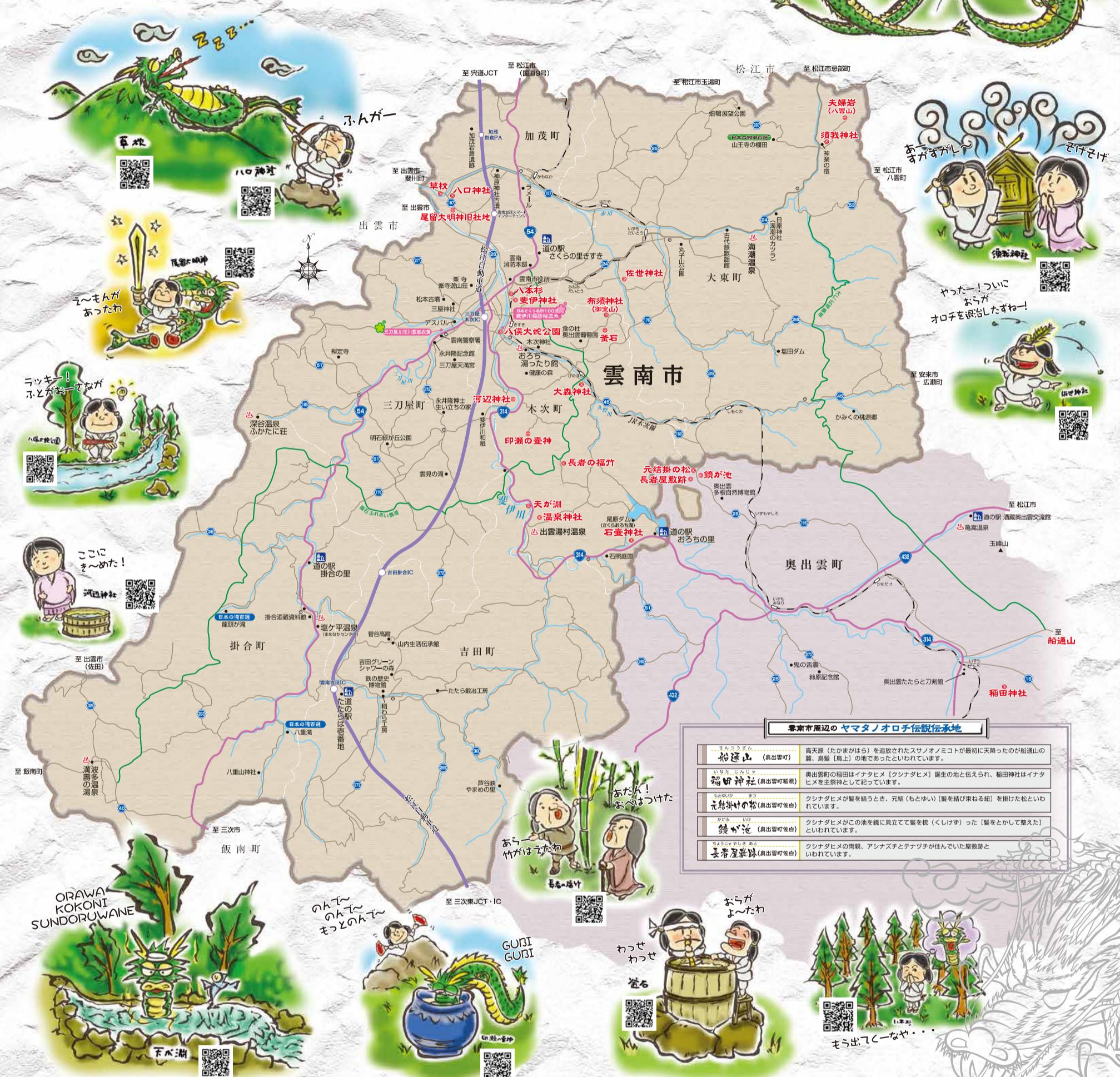
雲南市内のヤマタノオロチ伝説伝承地



スサノオノミコト・クシナダヒメ、そしてヤマタノオロチがお待ちしていますよ・・・。

八俣大蛇伝承地をご案内しましょう

神話の世界でおちらと（ゆっくりと）お過ごし下さい。



[ガイドの様子]



「ヤマタノオロチ伝説の舞台・雲南」を、「おもてなしの心」でご案内するのが雲南市観光ガイドです。
神話口マン溢れる数々の伝承地を「おちらと（ゆっくりと）」ご案内しますので、ぜひご利用ください。

《ガイド料金》 ガイド1名につき2時間まで2,000円、以降1時間ごとに1,000円加算。ガイド1名で40名まで案内可能。
《申し込み先》 一般社団法人 雲南市観光協会 TEL0854-47-7878
※ガイド利用日の1週間前までにお申し込みください。

オロチ伝承地を地元ガイドがご案内します！！

神話の里は「神楽」も盛んです！！

雲南市には、ヤマタノオロチをはじめとする出雲神話を演目とした「神楽」が古くから伝承されており、現在でも数多くの神楽団体によって守り伝えられています。古代鉄歌謡館では毎月定期上演を行っており、神話の里に引き継がれる伝統の舞を鑑賞いただけます。

《定期上演日時》 毎月第2土曜日 19:00～ 2演目を上演
※上演日が変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。

《料 金》 高校生以上1,000円 中学生以下無料

《問い合わせ先》 古代鉄歌謡館 TEL0854-43-6568 ●住所：雲南市大東町中湯石84 ●休館日：火曜日、12/29～1/3

※写真はイメージです

